

俳句で白石の魅力を発信！

NHK「俳句王国がゆく」公開収録

6月21日、白石市制施行60周年を記念して「俳句王国がゆく」の公開収録（7月6日放送）がホワイトキューブで行われました。この番組は、地元の方々と一緒に俳句を通して、その土地の魅力を再発見していくもの。地域の有名なものを題材に行う「ご当地俳句バトル」では、「温麺」「甲冑堂」「こけし」をテーマに白石チーム（川村哲夫さん・松谷カヨさん・佐藤幸さん）と俳句王国チームに分かれ、白石の魅力をアピールしました。収録の観覧者は「俳句を通して白石市の魅力をあらためて感じることができた」と話していました。



▲俳句を発表する俳人の皆さん

交通死亡事故ゼロ継続へ

交通死亡事故ゼロ半年 県警本部長から祝詞

7月3日、交通死亡事故ゼロ半年を達成した本市に、横内泉宮城県警察本部長から祝詞が贈られました。この日は、三浦英幸白石警察署長が風間市長に祝詞を手渡し、「交通安全に携わる皆さんをはじめ、市民の皆さんが一体となって行ってきた交通安全活動の賜物で、敬意を表します」とあいさつ。風間市長は「これからも市民の皆さんや関係団体の皆さんたちと一緒に交通死亡事故ゼロの継続を目指します」と話しました。本市では、平成25年12月30日に発生した事故以降、交通死亡事故は発生していません。普段から安全運転を心掛けましょう。



▲三浦署長（前列右）と記念撮影をする関係者の皆さん

夏まつりを心待ち

ゆかた着付け体験授業

6月24日と27日の2日間、日本の伝統文化である「ゆかた」の着付け体験授業が東中学校（高橋洋一校長）で開催されました。この授業には3年生126人が参加。市内の着付け教室の講師がボランティアで指導にあたり、着物の歴史などを学んだ後、男女に分かれてゆかたの着方の指導を受けました。また、ゆかた姿での歩き方や座り方などの作法も学び、普段の授業とは違った体験をしました。参加した生徒は「ゆかたを着るのが楽しい。夏まつりにはゆかたを着て出掛けたい」と笑顔で話していました。



▲着付け教室の先生から、ゆかたの着方を習う生徒たち

こころに響く 津軽の音色

公立刈田総合病院で第45回ロビーコンサート

7月2日、「第45回ロビーコンサート」が刈田総合病院で開催されました。この日は、津軽三味線奏者の八島義松さんが入院患者やそのご家族など約50人の前で、「津軽じょんがら節」「津軽三下り」など6曲を演奏。来場者は、手や指でリズムをとりながら三味線の音色に聴き入っていました。八島さんは「私の演奏で皆さんを少しでも勇気づけられたらうれしい」と話してくれました。同病院では、音楽が病気を治す一助になると考え、ロビーコンサートを開催しています。ご出演いただける方は、情報企画課（☎25-2145）までお問い合わせください。



▲オリジナルの「津軽じょんがら節」を披露する八島さん

白石から元気を発信！

YOSAKOI in 白石城

6月22日、「YOSAKOI in 白石城」が白石城本丸広場で行われました。この催しは、白石市制施行60周年記念事業として白石市文化体育振興財団（角張一郎理事長）が企画したもの。角張理事長が「あいにくの梅雨空ですが、皆さんの熱気で雨を吹き飛ばしてください」とあいさつをしてスタート。宮城県内各地から集まった11チームが小雨の降る中、チームごとの踊りや参加者全員で踊る総踊りなど勇壮な踊りを披露しました。訪れた観客は「すごい迫力の踊りで感動しました」と驚いた様子で話してくれました。



▲踊りを披露するよさこい走乱白石城の皆さん

モミジ街道を目指して

白石市自治会連合会白石支部が街路樹植樹

6月17日、白石市自治会連合会白石支部（鈴木恒秋支部長）の皆さんが、中央公園前から東町にかけての市道白石田中線の歩道にイロハモミジ40本を植樹しました。この活動は、同区間に植えられていたナナカマドの多くが枯れてしまったため、同支部が平成23年度からの4年間で約160本のイロハモミジを植樹し、景観を美しくしようというものです。参加者は「秋のモミジは美しい。この道が『モミジ街道』と呼ばれるようになり、通行する人が心とんできればうれしい」と話してくれました。



▲植樹を行う白石市自治会連合会白石支部の皆さん

チンゲンサイを白石の特産品に！

チンゲンサイ集出荷施設・休憩施設落成式

7月4日、有限会社蔵王グリーンファーム（菊地英明代表取締役社長）が栽培しているチンゲンサイの集出荷施設・休憩施設落成式が白川内親地区で行われ、関係者約50人が参加し、施設内を見学しました。同社は、津波被害を受けた名取市のチンゲンサイ農家に対し、同地区にパイプハウス160棟を建設するなど、営農活動を支援してきました。菊地取締役は「鮮度の良いチンゲンサイを消費者に届けられるようになった。生産技術を若い世代に引き継ぎながら、チンゲンサイを白石市の新しい特産品にしていきたい」と力強く話していました。



▲施設内にあるチンゲンサイの包装機などを見学する関係者たち

笹巻きの作り方を覚えたい

武家屋敷で「笹巻きの会」

6月21日、端午の節句に合わせて、笹巻き作り体験や試食ができる「笹巻きの会」が武家屋敷で行われました。笹巻きは白石に伝わる伝統食で、子どもたちの健やかな成長を願い行われてきたもの。この催しは、ヘルスメイト白石が笹巻きを後世に伝えようと、平成7年から実施しており、平成24年からは公益財団法人白石市文化体育振興財団と共催で実施しています。参加者は「普段は笹巻きを作らないので、作り方を覚えたくて来ました。また来年も参加して、しっかりと作り方を覚えたいです」と笑顔で話していました。



▲熱心に笹巻きの作り方を教わる参加者